

# 集団感染事例への 新技術の応用

—自由集会開催—

富山市保健所保健予防課

結核・感染症係 主査

今井 勝彦



10月25日(水)、第65回日本公衆衛生学会総会にあわせて結核予防会結核研究所の主催により、「結核集団発生の対策に関する自由集会」が開催されました。あいにくの小雨模様でしたが、全国から結核対策に大いなる熱意をもって活躍されている関係者が多数参加し、熱のこもった発表と議論が交わされました。

はじめに、川崎市から「QFT-2 Gの集団感染(疑い)事例への応用」と題し、6つの事例を挙げ、QFT検査を活用した集団的接触者健診の対応について報告がありました。BCG接種の影響を受けず特異度が高いQFT検査は、発病リスク者に対する化学予防の適応や健診範囲の決定に有用性を発揮している状況が看取でき、今後ますます結核対策において重要になると実感しました。また、費用対効果から生じる健診対象者の選定問題についても独自に「公費負担によるQFTガイドライン」を整備するなどして運用努力されており、今後、導入に向け検討している自治体関係者等の参考になりとても役立つものでした。

次に、結核研究所から「結核集団感染対策における結核菌DNA指紋法の応用」としてRFLP解析等の結果から判明した感染事例など実例紹介を交えた研究報告がなされました。近年、パチンコ店やカラオケ店、インターネット喫茶店などハイリスク環境が増大する中、患者間で思わぬ接点が見つかることもあり、私たちには広域な疫学調査が要求されつつあります。結核菌DNA指紋法を二次スクリーニングとして活用することで、地域や施設における結核菌伝播状況の推測が可能となり、より効率的に接触

者健診を実施することができるようになりました。分析結果の迅速なフィードバック、保健所・医療機関との情報の共有化等課題もありますが、その有益性から積極的に取り組みを図り、質の高い疫学調査を目指し努力したいと思いました。

最後に、結核研究所森名誉所長から「集団感染対策における新しい技術の動向」として感染診断や伝播証明の新技術について解説がありました。最近の集団感染は①結核菌の特性(耐性菌や感染力の強い菌)、②高齢者層における未感染者の増加、③外来性再感染、④不特定集団施設(遊興施設、交通機関)の増加等の要因から、感染対策として接触者健診の強化、ハイリスク者への重点的対応が求められています。感染診断の新技術としてQFT-2 Gの使用方法が示され、第3世代についての紹介もあり参加者の期待が膨らむものとなりました。また、DNA指紋法の研究が進歩しRFLP法に代わりVNTR法が確立されれば、迅速判定が可能になる他、解析結果のデジタル化により情報の蓄積、交換が容易となるため、ネットワーク化による円滑な情報交換が可能となり、近い将来、感染拡大の防止対策に大きな効果が期待されると思っています。

その後、全体討議に移り、参加者からQFT検査を中心に実施方法や追跡調査、費用対効果に関する質疑など活発な意見交換が行われ、最後に結核研究所加藤副所長によるまとめで集会を終えました。

結核対策における保健所の役割が強化されるなか、本集会の内容を踏まえより効果的な接触者健診の実施に努力していきたいと思っています。



参加者がつめかけた会場



質疑に答える大塚吾郎先生(川崎市)と大角晃弘先生(結核研究所)